

平成 27 年度
「スラブ・ユーラシア地域(旧ソ連・東欧)を中心
とした総合的研究」
共同利用・共同研究
個人型共同利用
成果報告書

(研究課題名 ロマン・アルビトマン (カツ、ゲールスキー) の歴史改変評論の研究)
梅村博昭

SF 評論家、作家ロマン・アルビトマンが P. C. Кац の筆名で書いた『ソヴィエト SF 史』(第二版、サラトフ、1993年;第三版、サンクトペテルブルク、2004年;第四版、サンクトペテルブルク、2013年)、Лев Гурский の筆名で書いた『ロマン・アルビトマン ロシア第二代大統領伝』(ヴォルゴグラード、2009年)といった、学術書、伝記の体裁を取りながら現実とは合致しない記述に満ちた「歴史改変評論」ともいべき書物の解明を調査の目的とした。六月初旬と九月初旬にセンターに滞在した。

北大図書館の蔵書を利用できたのみならず、九月の滞在時に、センターのスタッフ、外国人滞在者の助力により、アルビトマン本人と連絡をつけることに成功し、作家自身の理解と厚意により、かなりの資料を集めることができた。

『ソヴィエト SF 史』は、社会主義リアリズムではなく SF(ファンタスチカ)がソ連文学の主流となるという設定を持つ、それ自体が一種の歴史改変小説であるが、すべてが架空というわけではなく、実在する人物・文献も多数登場し、虚実の見分けが難しい。同書に登場する多くの文献を複写したので、今後それらからの「引用」が当該の原書にあるかどうか、時間をかけて調査したい。また、ソ連 SF 史研究の古典として評価の定まっている Бричков のソ連 SF 研究書を通読し、Кац の記述と現実の SF (ファンタスチカ) の発展とを対比することができた。さらに同書に見える、「ポツダム会談でスターリンがトルーマンに月面の分割を提案した」という趣旨の一節が、事実と誤認され、一部の TV 番組、インターネットサイトで本当にあったこととして流布したことを確認できた。ただ、Кац を真に受けた社会学者 Фишман が『ファンタスチカと市民社会』(2002年)という書を刊行しているが、これが北大に所蔵されていることには滞在中気づかなかった。

アルビトマン自身がエリツィンの後継大統領だったとする『ロマン・アルビトマン ロシア第二代大統領伝』については、六月の滞在時に、センターの大学院生主体の「ユーラシア表象研究会」で討議する機会を与えられ、同書の荒唐無稽さは一九世紀の作家センコフスキーを強く意識したものであること、総じて「歴史改変小説」alternative history, alternate history は、実現しなかった歴史の可能性を人々がまだ鮮明に記憶していることを契機として成立することを確認できた。

今後はこうした成果を公けにすることに全力を尽くしたい。

